



長野県ニューギニア会 会報

第7号

平成22年6月20日発行

長野市北長池1491

発行人 稲垣一良
印刷 神林印刷ニューギニア航空 日本支社長
日本・パプアニューギニア協会 事務局長

島田 謙三

架け橋

長野県ニューギニア会の皆様には、三十年以上にわたってパプアニューギニアへの慰霊巡拝にニューギニア航空をご利用いただいておりますことを、はじめに御礼申し上げます。

上げます。私事にわたりますが、祖父がウエワクで戦死をしていることから、私は二十五年前に初めてパプアニューギニアへ慰霊の旅をいたしました。

各地の戦友会様に慰霊団としてパプアニューギニアをご訪問いただいておりますが、ご戦友の方々も高齢となり、以前に比べますと次第にその機会も少なくなつていらつしやるようです。このような中で、長野県ニューギニア会の皆様は、ご戦友からご遺族、さらには若い方々へと、戦争を忘れることなく先人の想いを引き継いでいくことに尽力されるとともに、日本とパプアニューギニアの次代を担う人々が、両国の架け橋になるよう活動を続けられていらつしやいます。このことは、副会長の原雅彦様から伺っており、両国間の友好を深めるためにも大きな力となつておりますことに、深く感謝申

その後現在の職に就き、これまでの間に多くのご戦友、ご遺族の皆様とお会いする機会を得て、お話を伺いましたが、戦争の記憶を風化させることなく、必ず次の世代へ伝え続けることが大切である、と強く思い続けて参りました。このような意味からも、ニューギニア航空は単に両国を物理的に結ぶだけでなく、過去と将来をつなぐために皆様のお役に立つことも重要な務めであると考えておりましたが、本年三月三十一日からは土曜日に加えて水曜日も成田空港からの定期便を運航しております。これにより、従来一週間を要していたパプアニューギニアへの旅も、二泊四日や三泊五日でお出掛け

いただけるようになりました。

観光やビジネスのお客様からご好評をいただいておりますが、私はできるだけ多くのご戦友、ご遺族の方々に、少ないご負担で慰霊に訪れていただきたい、そしてニューギニア航空の原点はそこにある、と考えております。

この夏も、皆様と成田空港でお会いできると伺っております。ニューギニア航空、日本・パプアニューギニア協会でお手伝いできるがありましたら、何なりとお申し付け下さい。

皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げますとともに、長野県ニューギニア会様の益々のご発展をお祈り申し上げます。
(原文のまま)



本年度慰霊巡拝団について

長年の懸案でありました短期間での現地慰霊巡拝団が、今年実施されることとなりました。これはニューギニア航空島田支社長様の案内にもありますように、本年度3月31日より日本発着便が週2便体制になったことで実現が可能となりました。よって本年度東部慰霊巡拝団は、9月4日(土)から9月8日(水)、3泊5日の日程で実施する運びとなりました。訪問地は日程の都合上ウエワク中心のスケジュールを組まさせていただきますました。参加費用は最少催行人員15名の場合、成田発着21万円、また同じく10名の場合は1万円割増しの22万円となります。

今まで日数の多さで参加できなかった方は、この機会にぜひとも参加いただきますようお願い申し上げます。

また西部地区への慰霊巡拝団は、来年1月に実施することになりました。巡拝日程は東部と異なり、8日間コースで、費用は44万円(成田発着)、最低催行人員は5名となります。予定訪問地は、アルモツパ、マウスダイ、トム、トル河、サルミ、ジャヤブラ等となります。こちららもぜひ仲間を誘いあつて、ご参加いただきますようお願い申し上げます。尚、両コースとも長野県ニューギニア会ホームページに記載させていただきますので参照下さい。また慰霊巡拝団についての質問、問い合わせは左記宛までお願いします。

090-1426-3907

渉外担当 原 雅彦

西部ニューギニア 慰霊巡拝について

荒井 綏

長野県ニューギニア会が実施した西部ニューギニア慰霊巡拝は、30回を超える実績を持つ東部に比べて格段に少なく1995年、2001年、2004年の合計3回です。

その理由は、会を設立した戦友の方々が東部を本拠地とした第18軍所属で主として東部で活動したこと、戦後インドネシア共和国の支配下となった西部ニューギニア（現在はバブア州）の経済・社会の発展が遅れ、長い間治安が悪くて入りにくかったこと、西部は日本から遠く旅費もより多くかかることなどが考えられます。

しかし、西部でも米軍上陸後に激戦が行われ、5万人を超える戦死者ができました。その悲惨さは東部と変わると

ころはないと思います。ニューギニア方面戦没者の慰霊の活動を目的とする会としては、東部、西部の別なく慰霊巡拝を行うのが本来のあり方で、このことは総会でも議論され明らかにされてきました。

1995年には、西部班7名がポートモレスビーで東部班と分かれて航空機でジャヤプラ（旧ホーランジア）に飛び、ジャヤプラ及びその周辺、ゲニムなどを訪問してきました。

2001年には、会としては初めての西部単独の慰霊巡拝が行われ、高野前会長を団長とする総勢8名がNPO法人太平洋戦史館の岩淵さんの案内でビアク、ジャヤプラ、ゲニム、アルソーを訪問しました。アルソーは戦後日本人が訪ねたことは少ないとのこと、現地の大酋長さんに会うことができ、知り合いになれたことも大きな収穫でした。

2004年にも、西部直行の巡拝が行われ、高野前会長を団長とする総勢8名が岩淵さんの案内でビアク、ジャヤプラ、ゲニム、アルソー、アルモパ、サルミを訪問しました。アルモパは、戦後日本人が訪れたのは初めてのことでした。

どの場所も参加者の誰かの親族の戦没地です。その地に建つ慰霊碑の前で、それがないところでは近くの大木の下で形ばかりの質素な祭壇を設け簡素な慰霊祭を行ってきました。

2000年頃までは、ビアク、ジャヤプラ、サルミなどの開けた『都会』地を例外として、そこから先の奥地に



慰霊碑前での慰霊祭、ジャヤプラ近郊
コタバル海岸にて（2004.6.27）

入るのは治安が悪く危険を避けるため早朝暗いうちに出発して夜の開ける頃は安全な目的地に着くようにするなどずいぶん気を使ったものでした。最近では、治安もずいぶん改善され、案内人は相変わらず神経を使うことと思いますが、3回目の2004年には、そんなことは忘れて快適な旅をすることが出来ました。

慰霊巡拝とは別のことですが、慰霊巡拝に行つて現地で見聞きし深く感じるものの一つに、戦没者の遺骨の問題があります。2001年にはビアク、ゲニムで、2004年には、ビアク、ジャヤプラで遺骨と対面しました。現地の人が集めて袋に入れられているものだけでなく、土に埋まったままのもの、海岸端の林の中の洞窟に転がったままのものなどです。60年余りの歳月を越えてなお異国の地に孤独に放置されているこれらの遺骨は、未帰還兵の

遺体として祖国に、可能なら遺族の元にお迎えすべきものと強く感じさせられます。

近年民間団体の努力とこれを受けた厚労省の努力で、西部ニューギニアでも政府の戦没者遺骨調査と遺骨収集の事業が再開されています。

西部ニューギニアへの慰霊巡拝は、遺児の場合国費の補助で非常に安く行くことができ、これを利用して行かれる方も多いようです。

これに対して、会主催の巡拝は全額自費のため費用負担が大きいです、きめ細かなオーダーメイドに近い旅程を組んでもらえる場合が多く、それなりの満足が得られる内容になっていると思います。

何より現地で戦没された兵士の皆さんが祖国からの訪問者を待っているように思えてなりません。力の及ぶ限り現地訪問を息長く続けられることを願っています。



放置された戦没兵士の遺骨、ジャヤプラ
港近くの海岸崖の洞窟にて（2004.6.27）

西部ニューギニア略図

地名は太平洋戦争当時



ゲゲゲ・ストーリーボード・セピック

竹村 淳

三題ばなしのようなタイトルですが、朝の連続ドラマで水木しげるさん夫婦の物語が話題になっているので思い出したことを書いてみました。

ウエワクに行った方はご存じの定宿パラダイスホテルの食堂、調理場に入るところの右側の壁に大きなストーリーボードが掛けてありました。よく見ると右下に『金太郎さん』の腹がけをした子供、左下に『水木しげるの一生』とあります。



『水木しげるの一生』
ウエワクのホテルで

このストーリーボードは、ニューギニアの妖怪を探訪していた水木氏を、親しかったホテルの川畑さんがカンボットに案内、水木氏は自分の先祖と家族の物語をホテルで描き上げました。そして、その原画を後日カンボット族が3枚のストーリーボードに作り上げ、川畑さんのホテルにあったのはそのうちの1枚ということです。

私は第23回（平成11年）慰霊巡拝でカンボットに行く機会がありました。

朝7時にウエワクのホテルを出発、途中壊れかけた橋は全員車から降りて通過するような悪路を4時間、アングラムに到着。そこからは船外エンジン付の丸木舟でセピック川、そして支流のケラム川を遡上すること2時間あまり、カンボットに着いたのは午後の2時過ぎでした。壊れかけた精霊の家があったり、女性はサクサクを作っていたり、小さな部落です。ここで何枚かのストーリーボードを並べていた男から1枚を土産に選ばれました。帰りの時間が気になって現地は1時間足らずの滞在で出発、流れに乗って2時間ほど沿岸の風景を眺めながらアングラム。朝と同じ悪路をまた4時間近く、真つ暗な山道をとぼして帰館しました。

初めての慰霊巡拝で山南地区に入ったときに目にしたヤシの奥深い密林にオドロオドロしたものを強く感じて「水木氏の絵の原点の一部はニューギニアだ」と印象付けられた記憶が残っています。カンボットで買ったボードは小さな方で35×70cm、12キナ（500円）ほどのもの。荷物が重くなりましたが、いま壁にかかっているボードを見ると海のようなセピック川を思い出します。

ラバウルで左腕を受傷のため切断、復員後の苦労話はTVでご覧頂いたとして水木氏のことばに『命を失うより片腕をなくしても生きて帰った方が価値がある』とか。帰れなかった十数万の人たちがあらためて偲ばれます。

寄付者のお名前

平成21年度6月以降12月までに寄付をしていた方のお名前を以下に掲載します（五十音順、敬称略）。

青木つ志 青木敬子 赤沢恒雄 赤羽栄治
赤羽伊義 赤羽文助 秋山一雄 浅見栄一
阿部定雄 新井徳二 荒井恵美 新井克明
飯嶋芳郎 飯田将人 石井克典 石野俊雄
板井起彦 市川典夫 伊藤けさみ 伊藤武
伊藤健介 伊東千明 稲垣義昭 井上公之
井上弘子 今井通尋 今井平八 岩下ヒロ子
上田鐵雄 牛山次郎 内堀惣治 内山正信
大井巖 大久保広道 大久保典昭 大蔵昌子
大沢重子 太田準一 太田志子 大竹正彦
大西知子 大山哲司 大輪常市 荻窪とよ子
荻野敏雄 荻原光彦 荻原清助 小口茂門
奥原修子 長田健治 小沢やへ子
小野今朝美 尾針三重子 大日方辰夫
梶川ヨシエ 勝家義文 金井新平 金子隆一
金田きりゑ 上条洋吉 神谷克巳 北川孝
北澤直路 北島浩 木下訓夫 窪田一利
熊谷茂光 熊谷政高 倉石里美 胡桃沢良夫
黒柳隆次 小池弘光 越ミト 小島忠彦
小林実 小林明雄 小林かつ子 小林武夫
小林了三 小林傳 小林貢 小林弥助
小林博美 小松みつ 五味幸子 小山進
近藤勇 近藤三郎 斉藤康廣 酒井辰江
坂口光邦 坂巻安三 坂本良子 櫻井かをる
佐々木正利 佐々木武子 佐々木保二
佐々木康二 佐竹悦子 五月日輝雄
佐藤まつ子 佐藤睦男 塩沢文代 重野典茂
篠原順二 篠原行雄 柴田勲 島岡和里
嶋田喜一 清水幸江 清水秀洋 清水明男
清水ナツ子 志村よ志 下平道子 白川和衛
白木健助 代田文夫 杉田あや子 杉山照市

関徹 関和子 曾根原美恵子 高野秀樹
高橋晋 高見沢製袋久 滝澤光樹 滝沢茂雄
竹内光春 竹節主計 竹村典江 立野百合子
田中久夫 田中久男 田中隆二 田中はるみ
田中裕海 田中之雄 田辺はるよ 田原慶一
田村安子 塚原基 塚原ふみ子 都竹寛
土戸きみゑ 土屋耕太郎 土屋文次
土屋英雄 寺平とし 徳武清晴 富沢近意
友野菊太郎 永井義一 中井富美子
長崎よしえ 中島弥吉 中村清子
中村俊一郎 中山功次 中山幸子 成沢勝人
成沢長子 新津次雄 西沢悦子 西沢正子
西村千代子 縹沢芳夫 根橋英幸 野口保雄
羽毛田明良 長谷川十代栄 濱村英彦
林尚武 原進 原元衛 原春男 原俊夫
半田きち子 深沢泰 福島力ホル 藤原一夫
二本登美子 古川きよる 古畑吉茂
古畑幸子 堀内製袋男 堀内孝 堀込せい子
前沢ためよ 前島さみゑ 前島隆 牧内住子
松井妙子 待井高美 松崎弘司 松澤祥子
松沢秋人 松田寿朗 松本久 丸山尊人
丸山芳邦 丸山幸一 丸山数猪 丸山悦二郎
水沢みつ子 水野信一 水野洋三 水野幹
密沢ふみ子 緑川国威 峯村一男 箕輪邦子
三村ふみ 宮内ナツ 宮坂喜作 宮沢製袋信
宮沢利春 宮下文子 宮下美保 宮下和家
宮下実 宮島いく子 宮嶋叙子 宮部和代
宮本佳雄 茂木毛サキ 百瀬泰昭 森泉誠
両角治郎 師田賢説 矢澤英峰 矢沢健治
矢島敏男 八嶋誠 安川敬春 安原朝子
柳沢厚 柳沢辰司 矢花健 山井今朝雄
山上知江 山岸清美 山越伸雄 山崎富士男
山崎正登 山田万喜一 山田孟男 山田和子
山田由紀子 山寺安政 山本繁弘 湯川勲
湯本良吉 横山薫夫 吉川要一 吉村修治
依田よし江 米沢生久 米沢徳宝 渡辺和子
渡辺弘文 和田美紀夫 和田宣彦
(以上263名)

第42回 ニューギニア方面 戦没者慰霊大祭

本年も左記のとおり行います。
日時 7月25日(日) 正午より
場所 松本市 県護国神社本殿
多数の皆様のご参加をお待ちしております。
尚、前日行われる清掃作業にご協力をお願いします。

第42回通常総会報告

2月11日、松本市浅間温泉のホテル井筒で、会員23名(他に委任状211名)のご出席をいただき、通常総会が行われました。議事の概要は以下のとおりです。

平成21年度経過報告

①第41回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭を、松本市の長野県護国神社において来賓、会員、遺族各位のご出席をいただき開催しました。

②第32回東部ニューギニア方面慰霊巡拝を実施しました。大日方団長を初めとする総員8名の慰霊巡拝団が、9月6日に成田を発ち、13日に無事目的を果たして帰国しました。

③従来の編集委員会を会報発行とインターネットホームページ運営を任務とする広報委員会に改組しました。今年度は会報『椰子の樹』を2



マダンの民家

回発行し、またホームページの改修を行いました。

平成22年度事業計画

①第42回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭を開催します。

②第32回東部ニューギニア方面及び第4回西部ニューギニア方面の慰霊巡拝団を派遣します。

③会報を2回発行します。ホームページを随時更新します。

会計の報告

平成21年度の決算では、途中で会の運営を支えるための一般寄付をお願いしたところ、260名あまりの方々から多額のご寄付をいただきました。(お名前は第3面に)

今年度はインターネットホームページの改修のほかに、慰霊巡拝参加者数が予定に達しなかったための追加費用など、予算外の臨時出費がかかりましたが、これらすべてをまかない、残り22年度の西部慰霊巡拝費に当てるよう予算化することができました。

平成22年度予算は、慰霊巡拝費で西部の分を増額した点を除けば、予算規模、内容とも平年度実績とほぼ同じです。(荒井)

慰霊碑改修委員会発足

護国神社慰霊碑改修整備委員会を発足させ、『嗚呼戦友の碑』の改修整備計画を作成します。委員会は、横田久委員長のほか、神谷克巳相談役、荒井綏、丸山尊人、大日方辰夫の4名の委員で構成されます。

平成22年度一般会計予算(要約)

収 入	金額	支 出	金額
年度会費	1,200,000	慰霊大祭費	590,000
大祭参加費	260,000	慰霊巡拝費	680,000
寄付金等	130,000	総会費	380,000
特別会費	450,000	役員会議費	195,000
		広報費	370,000
		交際費	30,000
		事務費	75,000
		碑等維持管理費	50,000
		予備費	100,000
年度内収入計	2,020,000	年度内支出計	2,470,000
前年度繰越金	1,191,760	翌年度繰越金	741,760
合 計	3,211,760	合 計	3,211,760

平成21年度一般会計収支決算(要約)

収 入	金額	支 出	金額
年度会費	1,154,000	慰霊大祭費	760,466
大祭参加費	276,000	慰霊巡拝費	753,146
寄付金等	974,026	総会費	426,258
特別会費	460,000	役員会議費	107,600
雑収入	1,654	会報発行費	203,041
		交際費	13,500
		事務費	111,256
		碑等維持管理費	0
年度内収入計	2,865,680	年度内支出計	2,375,267
前年度繰越金	701,347	翌年度繰越金	1,191,760
合 計	3,567,027	合 計	3,567,027

編集後記



☆パプアニューギニアへの旅は、以前香港、インドネシア、オーストラリアなど経由していましたが、現在はニューギニア航空の直行便が開かれていて成田から6時間です。いつもお世話になっている同社の島田支社長さんからメッセージが寄せられました。これからも現地の国内路線も含めてご便宜を図って頂き、慰霊旅行が充実するよう期待をしましょう。そして、今年の巡拝は新しい便で予定されていますので特別にお忙しい方には好適です。大勢のご参加をお待ちしております。

☆慰霊巡拝というと、東部のパプアニューギニア方面が多かったのですが、西部(インドネシア領)のご遺族の方も大勢おられます。ご自身で現地へ行ったことのある荒井さんから西部への思いが寄せられました。東部に比べて何かと大変な西部ですが、多くの英霊が待つておられます。

☆『ゲゲゲの女房』が話題。水木氏原画のストーリーボードの写真もたまにウエワクのホテルで撮ってありました。同時代の戦後を送った編集子は共感を覚えて書店に行きました。たくさんのお水木氏の文庫本、妖怪に混ざってラバウルでの戦記ものもあります。

☆松本護国神社での慰霊大祭は毎年南の島を偲ぶ暑い日です。今年も大勢集まって元気な顔をお見せください。松本で7月25日にお会いしましょう。

(竹村)